

三、越盟黨ノ内容

(1) 運動政策ノ概要

日本ノ「ボツタム」宣言受諾後、跋扈シヨバオカイ帝ヲ退位セシメ、一躍政權ヲ
手中握セシム。越盟黨ハ其ノ指導者ノ大部ヲ越南共產黨員ニ見ル。越盟黨
ノ黨派的ナル存在ニ「アラス」新ノ態ニ処シ、救國ノ最高目的達成ノ爲メ、政
治黨派ノ過去一切ノ意見ノ対立ヲ捨テ大同團結セル人民戰線ナリ。
終戦直後、潜行的運動ヲ一擲シ勇躍救國委員会ヲ組織シ、直下ニ全越
南同胞ニ銜ノ團結ヲ要望シ、連日左ノ如キ檄ヲ發セリ。

檄

越南國民ヨト、固ク團結シテ黨派心ヲ捨テヨ

我等ヲ支配セントスル者ニ對シ、我等ガ自由ヲ愛シ、我等ノ獨立ヲ保持
シ得ル國民タルコトヲ示セ。治安ハ尊重セズバナラヌ。社会ノ治安ヲ乱
スカ如キ行動ハ嚴ニ戒メ、ホナラヌ。然レシテ尚、フランヌ人ト稱
融シ、彼等ノ近キ再來ヲ望ムガ如キ輩ニ對シテハ、嚴重忠告セズバナラヌ。
斯クテ北部印度支那ニ於テハ、八月十九日、南部ニ於テハ、二月五日、完全ニ
政權ヲ握リ、新シキ意味ニ於ケル民主主義的共和國ノ組織ヲ天々
時執行委員会ノ組織セリ。
八月二十五日、函貢ニ於テハ、独立憲法、越盟政權樹立紀念ノ大会開催セ
ラシタリ。

此ノ日、全市ノ官衙、學校、商社ハ休業シ、地方各地カラノ代表ヲ加ヘテ

約七萬ノ男女ハ早朝カタ總督官邸前ノ広場ヲ中心ニ集合シ十時ヨリ
越盟党旗ヲ手ニテ街頭行進ヲ開始シ十三時市テ前ノ演説
会ニ絶クマテ越南人ノ越南ヲ復村スベキコトヲ高唱シ幕ヲ閉ジタ
リ

此ノ頃ヨリ越盟ハ聯合國ノ勢力カ関係ヲ巧ミニ利用シテ平和裡ニ対佛
關係ヲ清算セントカカスル意圖ヲ有シタリ

八月二十日ワシントンニ於ケルコトフルトルーマンニ会談ノ好機ヲ狙ワテ
ハオダイニ電報ハ両者ニメソセービヲ送り越南ノ独立保持ノ堅イ意志
ヲ表明 戦後ノ國際同感化セシムルコトニ依リ独立ヲ獲得セントシタル
ハ注目ニ價ス

而シテ八月二十五日ノ聲明ニモ見ル如ク佛人ヲ脅威スルニ足ル十分ナ
カヲ示威シツ、モ直接行動ニ出ルコトヲ嚴ニ戒メ佛人ヲ敵トセズシテ佛
ノ植民地政策ヲ敵トシ統制アル和戦兩用ノ構ニ出タル事ハ安當ナル
方策ト考ヘラレ 一部少壯血氣ノ青年ガ竹槍ヲ手ニ街頭ニ在リシタモ
逐次姿ヲ退シ專ラ各団体毎 指導者ノ下ニ団体訓練ニ精進スル様
が見エタリ
其ノ他ノ運動

(1) 鉄道管理権ノ要求
ローランニクワンガイニ付シテ附也ニ於テハ鉄道ノ管理権ヲ掌中握スル目

的ヲ以テ八月二十六日以降輸送妨害及従業員ノ總罷業ヲ行ハル而
シテ其ノ管理權ヲ移讓セラル、ニ於テハ日本軍ニ対シ全面的ニ協力ス
ベキ事ヲ條件トシアリ

(1) 武器獲得ニ狂奔

各地越盟党ハ所在日本軍ニ武器交付方要請シ來ルモ之ニ應ゼザリシ
所竹槍等携ヘテ示威運動ヲ行フ所スラアリ 或ハ兵器集積所ニ
從來ノ兵補苦力ノ誘導ノ下ニ往虎ヲ組ミテ侵入強奪セト企図セリ
佛人ハ此ノ向ニ処シ專ラ本國ノ方針ニ從フコトニ決シ無益ノ騷擾ヲ避ク
ベキ慎重ナル態度ヲ持シタリ

ドゴール主席ハ八月二十日印支在留佛人ニ対シ「印度支那ニ總督ヲ
派遣スルトイフ約束ヲ破ラサルベカラザルハ遺憾ナリ 其ノ理由ハ聯合
國側ニ參加セシ越南政權ガ樹立セラレタルニ依ル 戦艦ヲリヒリ」ハ
新命令アル迄「セイロ」ニ止ル標 緊急命令ヲ受ケタリト告ゲタ
リ(但 事實ハ直後急變セリ)

斯ノ如ク兩者ノ自重ニヨリ一應ハ平靜ニ見エタルモ越盟ノ十九世紀以
降ノ歴史ニ対スル憤懣ハ國際情勢ノ微妙ナ動キニツリテ何時爆發
スベキヤモ知レヌ不豫ノ氣ヲ燃エタリ

(2) 幹部及其ノ略歴

全般指導者 阮 愛 國 (首席兼外相)
一八九二年九安ニ生ル 行政官吏ノ息子 十九才ニシテ海員生活ニ

入り諸國ニ遊ブ。特ニ佛國ニ於テハ職工トナリ勞働者ノ辛苦ヲ體驗ス。此ノ向フフリーメイソン等ニモ出入ス。一九四二年「コミンテルン」ガ「モスクワ」ニ創ラレ活動ヲ開始スル前年ヨリ「ロシヤ」ニ於テ眞實ナル理論ノ研究ニ没頭。支那共產党ヲ誼ビテ安南ノ同志達トノ連絡ヲ圖レリ。其ノ後「コミンテルン」指令ニヨリ、広東ニ渡リ安南民族獨立運動ヲ種々画策。被壓直民族解放同盟ノ組織ビ「安南革命青年協會」ヲ結成ス。コレハ後ノ「越南共產党」ノ前身ナリ。

一九三〇年（昭和五年）滇越鉄道沿線安南ニ端ヲ發セル反佛大暴動ヲ指導ス。胡致明トノ変名ヲ用ヒ「モスクワ」又ハ重慶ニ在リト謂ハル。

- 内相 武元甲
- 宣傳相 陳輝料
- 國防相 朱文新
- 其ノ他 ナナ相

- (3) 首都 河内
- (4) 包含スル党派

○越南共產党
 「ロシヤ」革命ガ裔シタ共產主義思想ハ安南ノ民族運動ニ新ナル様相ヲ呈シ始メタリ。從來マデノ民族運動ノ形態ハ皇帝又ハ貴族達ニ率ヰラレタ

4

1623

帝室ノ復興、或ハ佛官憲ノ壓迫ニ對スル何事判然タルイデオロギールヲ持ツヌ
叛抗、或ハ國粹主義理念ニ基イタル越南革命會等ノ活動ナリキ
然ルニコロシヤ革命ノ結果ハ安南民族ノ中カラモ新レキ革命主義理論ヲ
持テ其ノ理念ヲ以テ民衆ヲ指導シ佛ノ統治政策ニ抗スル運動芽生エ
タリ 是上述べノ院愛國ノ越南共產黨ナリ コレハアクマデ民衆ノ向ニ根ヲ
下シ民族ノ向ニ生長シ行キタルモノニシテ後述越南光復會又ハ越南國民
黨トハ對蹠的ナル存在ナリ
越南共產黨ノ所謂目標ハ政治的ニ「ブルジョア」ノ残存勢力ヲ全ク消滅
セシムル事ノミナラス佛勢力ヲ安南カラ驅逐スルコトヲ第一トセリ コノ點「マ
ルクス」ノ解釋スル共產主義理論ヨリ考フルトキ餘程ノ隔アリ 即チ此ノ
理論ノ相違ヨリモ手段方法ノ隔リヨリモ安南ニ在ツテハ佛勢力ノ驅逐ガ
先ヅ共產黨ノ徹底ノ為必要ナリタリ
一九三〇年安南ニ端ヲ發シテ反佛大動乱ニ越南國民黨ト大同團結シ
「ゲア」ハ河靜ニ於テハ翌年迄モ動乱ヲ繰リ返セリ 更ニ北部各地
ニ蔓延セル農民ノ暴動モ共產黨ノ巧ミナ宣傳ノ結果ナリ 因ニ當時
男子労働者一日ノ勞銀ハ九錢（食費七錢）ニシテ此ノ貧農ニ共產黨以
テ巧妙ナル「プロパガンダ」ハ實ニヨク浸透セリ
先ニモ述べタル如ク安南ノ共產主義運動ハ正統共產黨主義理論ヨリ是
ト甚シク隔リアルモノニシテソノ國家体制ハ共產主義國ナリトモ民主主義
國家ナリトモ問題ニ非ズ コレハ第三義的ナルモノニシテ唯當時

トシテ特ニ農民労働者階級ニコソ思想理論ハ受ケ入レ易ク生計ノ苦シム
ヨリ脱レントスル際 恰好ノ寄リ處タリナリ 従而人民戦線結成セラレ
積極的の活動ヲ開始セリト雖モソハ正統的の共產理念ヲ把握セル人々ノ集リ
ニテラザルナリ

○ 越南國民黨

コレハ越南共產党トソノ基本理念ニ於テ正ニ対立的ナ國粹主義的の獨立運
動団体ナリ 此ノ党ノ中心人物タル阮大造ハ既ニ二十三年ノ若年ノ頃ヨリ事
實上ノ指導權ヲ握リテリタリ 一九三五年(大正十三年)ノ「メルラン」戦線
件モ此ノ党ノ范鴻泰トイフ青年ニヨリテ為シタルモノナリ

國粹主義的色彩ヲ強ク祖宗傳説ノ道徳ヲ本トシタルモ一面 天賦人權ノ主
張ハ底主義的のナリトモ見ラレ

阮大造ハ安南事件ニ多クノ幹部ト共ニ処刑サレタルガ彼等ガ刑場ノ器
ト消元際叫ビテ「越南萬歳」ハ今ニレテ安南人ノ魂ニ呼起サレアリ

○ 越南光復会

一九〇四年安南志士達ノ手ニヨツテ始メテ組織サレタ獨立運動団体ナリ
コレニヨリ始メテ各獨立運動者ノ間ニ連絡ガ保タレタリ

彼等ハ日露戦争ニ見日本ノ勝利ニ覺醒シ日本ノ援助ヲ求メ多クノ留
學生ヲ日本ニ送レリ 一九〇八年(明治四十一年)ノ安南及東京地方ノ大
動乱ハ「北圻勤王党」トノ密接ナ聯繫ノ上勃發シタルモノナリ

○高靈教

一九六二年、黎文忠ニヨリ西貢ニ創始セラル。ソノ思想ハ宗教ハ安南人日常
生活ノ基準タル道教の信仰ト古來カラ存在シタル巫道ノ信仰加
フルニ天主公教、茲ニ西政ノ理論ヲ受入レテ綜合セルモノト云ハル

此ノ瘡民ノ信仰ヲ中核トスル宗教ハ非常ナ勢ヲ以テ風靡シ一九三〇年ニ
ハ早クモ五〇萬人ノ多数ニ増加シ信者ハ東埔寨ヲ除ク南支ニ迄拡カ
レリトイフ。一九四〇年十月、爆發セル及佛暹動ハ西貢市外ノ各

所ヲ佛印警備兵ノ屯所及佛人農園ヲ襲撃放火セリ。佛軍ハ例ノ
如ク武力ヲ以テ之ヲ鎮壓。西學ノ本部ハ閉鎖セラレ慈刺約結果ヲ以
テ終熄セリ

○青年先鋒

西貢附道ノ党員四馬ト稱セラレ急進實現行派ニレテ最モ實力ヲ有スル
ト謂ハル

○和好教

○越南青年愛國党

三、九月二日西貢騷擾事件ノ概要

越盟南都院執行委員及之ヲ支持スル一般民衆ハ九月二日聯合青年々書管理
委員方面員ニ到着スルモノト思考シ之ヲ歡迎スル爲、且ハ偽々南日カ役等
ハ、